

会 議 録

会議の名称	令和5年度那珂川市環境審議会（第1回）		
開催日時	令和5年10月23日（月） 15:00～17:00	開催場所	勤労青少年ホーム2階 第1・2会議室
出席者	<p>1. 委員 朝廣委員、調委員、熊谷委員、中島委員、山本委員、八代委員、原口委員、比嘉委員、本田委員、川崎委員、池田委員 （欠席者）なし</p> <p>2. 執行機関（事務局） 春崎環境課長、江藤環境課長補佐、藤野担当係長、高崎担当係長、岩崎主任主事</p> <p>3. その他 備前グリーンエネルギー株式会社（コンサルタント）2人 エヌエス環境株式会社（コンサルタント）2人</p>		
公開区分	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 ・ <input type="checkbox"/> 一部開示 ・ <input type="checkbox"/> 非開示		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 委嘱状交付 2. 開会あいさつ 3. 自己紹介 4. 環境審議会とは 5. 会長・副会長の選任 6. 議題 （1）第2次那珂川市環境基本計画年次報告書（令和4年版）について <事務局より説明></p> <p>委 員：P5_2-1-1-2②竹林の管理・伐採について、県の補助制度を活用してはどうか。 担当課と連携して進めて欲しい。</p> <p>事務局：令和3年度は伐採の実績があるが、令和4年度は伐採の実績がない。今後も担当する産業課と連携して取り組みを進める。</p> <p>委 員：福岡県の森林面積は拡大している。那珂川市も同様と考える。森林面積や荒廃森林の面積といった現状を把握したうえで、対策を講じるべきである。</p> <p>事務局：承知した。</p>			

委員：P2～P14表のレイアウトについて、「均等割り付け」は見にくい。
事務局：見やすく修正する。

委員：P7 誕生祝い品の写真が掲載されている意味が分かりにくい。
事務局：P5_2-1-1-2②「なかがわのふるさとつみき事業」において、出生者に祝い品として配布したものである。指摘のとおり写真の掲載が唐突でわかりにくいので、当該箇所の説明を追記する。

委員：P5_2-1-1-2③竹林の伐採について、再生を抑制するために地上部の伐採だけでなく地下茎の切断が必要と思うが、伐採時に地下茎の切断も実施しているのか。
事務局：担当課に確認する。

委員：D評価（未着手）について、市の怠慢で未着手なもの、該当ないため実施していないもの（評価の対象とできないもの）と、区別するべきではないか。
委員：D評価（未着手）について、「該当ないため実施していないもの」は「－」としてどうか。
事務局：評価区分や評価方法について、再検討する。

委員：P6_2-1-2-2①は達成度B、P7_2-1-2-2②は達成度Aである。両方とも達成度Aとしてよいのではないか。
事務局：P6_2-1-2-2①は鮎稚魚放流は実施したが、水辺教室は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施できなかったが、評価について再検討する。

委員：鮎稚魚放流時のイベントのあいさつや水辺への誘導について、参加者への配慮・安全対策が不十分と感じる。
事務局：今後は改善する。

委員：放流する鮎稚魚の購入元（産地）は把握しているか。
事務局：把握の有無を含めて確認する。

委員：鮎稚魚の由来は那珂川水系とすることが理想である。福岡県保健環境研究所の研究員にアドバイスいただくとよい。
事務局：承知した。

委員：P7_2-1-2-2②県の研究機関と連携した調査とはどのようなものか。
事務局：研究機関とは福岡県保健環境研究所である。左記研究所の研究員の協力により、那珂川の鮎を採捕し、体長等を調査したものである。

委員：達成度A B C Dは誰が評価しているのか。
事務局：所管の各担当課が評価したものを、環境課が精査したものである。

委員：取り組み状況の総括が欲しい。
事務局：指摘どおり総括を追記する。

委員：P15 自然環境分野の成果指標「荒廃農地の面積」進捗状況の数値が間違っている。66.7%ではなく100%を超えているのではないか。
事務局：指摘のとおりである。修正する。

委員：P15 資源エネルギー環境分野の成果指標「一人一日あたりのごみ排出量」の数値が、P16 の資料のどこに該当するか、わかりにくい。
(P16 の左下に小さく表示されているのみである)

委員：P16 の右下表の用語がわかりにくい。

事務局：わかりやすいように、資料を添付するか、本頁を修正する。

委員：P17 水質検査結果のうち、大腸菌数の数値が高いように思うが、理由はあるか。

事務局：調査を委託した検査機関の分析では、降雨の影響があるとのことである。

事務局：今回指摘を受けた箇所を追記修正し、後日各委員に提示する。

(2) 第3次那珂川市環境基本計画（素案）について

<事務局より説明>

委員：P2 福岡県の条例計画について、「福岡県生物多様性戦略」を追加して欲しい。他にもあれば追加して欲しい。

事務局：承知した。

委員：P21 「住民活動への積極的な参加意向の割合」が2%である。環境活動への参加や環境基本計画の認知を向上させる取り組みを検討して欲しい。

事務局：検討する。

委員：P22 「那珂川市の行政活動に伴う二酸化炭素排出量」は那珂川市全域のものか、住民一人当たりで換算したものか。

事務局：行政活動に伴うもののみを計上している。「事務事業編」でとりまとめた数値である。増加の要因は、換気のための窓の開放による冷暖房費の増加、人口増加による事務量の増加と考えている。

委員：P30 環境指標「那珂川市の温室効果ガス排出量」は、「那珂川市地球温暖化対策実行計画区域施策編」の目標と整合が取れているか。

事務局：環境指標（数値目標）は現在精査中である。完成までに整合をとりながら環境指標を決定する。

委員：環境指標（数値目標）の提示とともに、市民が具体的に何をすればよいか、どう行動すればよいか、わかりやすく工夫して欲しい。

事務局：検討する。

委員：P22 「ポイ捨てなどの散乱ごみの状況に関する満足度」基準値の単位が間違っている。

事務局：指摘のとおりである。修正する。

委員：P21 「環境モラルに関する苦情件数」は内容を選別した上の件数か、苦情の件数そのものか。

事務局：苦情の件数そのものである。

委員：P46 (4) 人と動物の関係の記述の中で「シカ」とあるが、那珂川市

にはシカはいないので、記述を削除すべきである。一方、カラスによる被害があるため、カラスを追記すべきである。

事務局：P46 の記述内容や記載順番は、福岡県の資料をそのまま掲載するのではなく、那珂川市の現状に合うように修正する。

委員：那珂川市内でサルが出没している。理由はあるか。

事務局：一般的には、里地里山の減少や手入れ不足などで緩衝帯がなくなることといわれている。那珂川市に出没しているサルは「ハナレザル」であり、単独でいる理由や市街地に出没する理由は不明である。行動が読めず駆除が難しく、有効な対処方法がない状況である。

委員：P43 アンケート結果の上位は市街地における項目であり、市街地に住民が多いという那珂川市の現状を表していると考えるが、同時に面積の広い山間部の項目（野生生物の生息域の変化）に対しても、「市街地項目」と同じようにバランスよく取り組んで欲しい。

事務局：検討する。

委員：P44 具体的な取り組みについて、市の担当課だけが記載されているが、事業者や市民にも取り組んでもらえるように、記載を検討して欲しい。

事務局：検討する。

委員：P13 本文 2 行目「～那珂川が市の中央を南北に貫通し～」について、「貫通」ではなく「貫流」ではないか。

事務局：確認して修正する。

委員：P13 本文 12 行目「～経営耕地面積も同様の傾向～」半分に減少した経営耕地面積の残りは、耕作放棄地になっているのか。

事務局：確認する。

委員：P13 本文 22 行目「～周知啓発～」について、「周知啓蒙」ではないか。

事務局：確認し必要に応じて修正する。

委員：P14 地区（片縄、岩戸、安徳、南畑）の区分けがわからない。

事務局：わかりやすく修正する。

委員：P14 新幹線の線路図について、トンネル区間を破線にするなど区別して欲しい。

事務局：わかりやすく修正する。

委員：情報化が進んでいる自治体についての情報はるか。

委員：世田谷区、横浜市が該当すると思う。

委員：環境や環境基本計画について、市民の理解を深めることや、取り組みへの参加を促すためには、計画策定段階からワークショップの開催など、市民と一緒に計画を考えるのが最適である。計画策定後であれば、参加してもらおう工夫や、自分ごととしてとらえてもらえる施策を実行することが重要である。「参加」することが「意

識」を高めることにつながる。

事務局：今回指摘を受けた箇所を追記修正し、次回の環境審議会で各委員に提示する。

7. その他

(1) 再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査について

<事務局より説明>

委員：電気自動車を導入しようにも充電設備がなければ普及しないと考える。充電設備についても調査しているのか。

事務局：充電設備の設置についての必要な調査も行っている。

(2) 枯葉剤の現状について

<事務局より説明>

8. 閉会あいさつ

会長：これで審議を終了する。

以上